

高等学校における道德教育推進のための一問一答集

平成 25 年度

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究

愛知県総合教育センター

目 次

1	道徳教育の目標	
Q 1	学習指導要領の基本理念「生きる力」と道徳教育の関係を教えてください。	1
Q 2	今回の改訂で道徳教育が一層重視されるようになった経緯を教えてください。	1
Q 3	道徳教育の目標は何ですか。	1
Q 4	道徳性とは何ですか。	2
Q 5	道徳教育を進めるにあたっての配慮事項は何ですか。	2
Q 6	道徳教育の改訂の要点は何ですか。	3
Q 7	各学校段階における道徳教育の重点を教えてください。	3
2	中学校における道徳教育	
Q 8	中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何ですか。	4
Q 9	中学校では道徳教育をどのように進めているのですか。	4
Q 10	中学校の道徳教育は具体的に何を指導しているのですか。	4
Q 11	中学校における「道徳の時間」の目標は何ですか。	5
Q 12	中学校における「道徳の時間」の教材(資料)について教えてください。	6
Q 13	中学校における「道徳の時間」の授業展開の工夫について教えてください。	6
Q 14	中学校の「道徳の時間」における配慮事項は何ですか。	7
Q 15	中学校の道徳教育における評価の意義は何ですか。	8
3	高等学校における道徳教育の考え方	
Q 16	どうして高等学校で「道徳教育」を実施するのですか。	9
Q 17	高校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何ですか。	9
Q 18	「人間としての在り方生き方」とは、具体的にどのようなことですか。	9
Q 19	高等学校では「道徳の時間」が設定されていませんが、どのように進めるのですか。	10
Q 20	道徳教育の全体計画とは何ですか。	10
Q 21	道徳教育の全体計画を作成する目的は何ですか。	10
Q 22	道徳教育の全体計画に含めるとよい事項は何ですか。	11
Q 23	道徳教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何ですか。	11
4	教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育	
Q 24	教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何ですか。	12
Q 25	各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何ですか。	12
Q 26	各教科・科目において道徳教育を展開させる留意点・工夫は何ですか。	13
Q 27	総合的な学習の時間と道徳教育の関連を教えてください。	13
Q 28	特別活動と道徳教育の関連を教えてください。	14
Q 29	キャリア教育と道徳教育の関連を教えてください。	14
Q 30	道徳教育を行うときに参考になる資料はありますか。	14

1 道徳教育の目標

Q 1 学習指導要領の基本理念「生きる力」と道徳教育の関係を教えてください。

A 今回の改訂においても、「生きる力」の育成を基本的なねらいとしています。この「生きる力」とは、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などのことで、この知識基盤社会を生き抜くために必要な人間としての実践的な力です。この「生きる力」における豊かな人間性の育成を図るのが「心の教育」であり、その基盤として道徳教育があります。今日の生徒の現状等を踏まえてこれからの学校教育を考えると、道徳教育の重要性が改めて強調されています。

Q 2 今回の改訂で道徳教育が一層重視されるようになった経緯を教えてください。

A 現在、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、子どもの心と体の状況に関わる課題は少なくありません。また、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子どもの増加等も指摘されています。その中で、現実から逃避し、今の自分さえよければという自己の考えに閉じこもりがちな子どもの問題も指摘されています。子どもたちが、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を深めてこそ健全な自信が育まれます。そのためにも、学校の集団生活の場としての機能を十分に生かし、道徳教育の一層の充実を図らなければなりません。子どもたちの問題だけでなく、今日の家庭や地域社会及び学校における道徳教育の現状などからみても、更に道徳教育の充実を図ることが重要です。

Q 3 道徳教育の目標は何ですか。

A 総則第1款の2に示された道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、以下のアからカのような人間を育成するために、その基盤としての道徳性を養うことを目標としています。

ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う

イ 豊かな心をはぐくむ

ウ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する

エ 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する

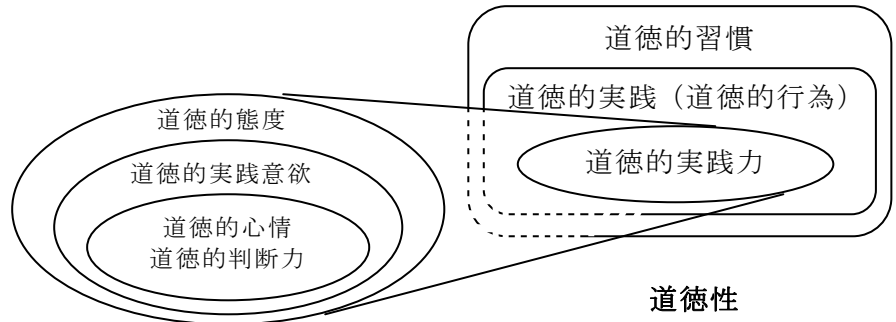
オ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する

カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する

Q 4 道徳性とは何ですか。

A 道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的
行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。それは人間らしいよさ
であり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものと言えます。

この道徳性は、道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度から成る道徳的実践
力と、道徳的実践力が高まることによって可能になる道徳的実践、そして、
それらの行為が繰り返し行われることによって身に付く道徳的習慣から構成されます。



これらの語句の説明は
以下のとおりです。

道徳教育指導者養成研修(中央指導者研修)参考

	諸様相	内容及び説明
道徳的 実践 力	道徳的 心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を思考する感情といえる。道徳的行為への動機として強く作用する。
	道徳的 判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力のこと。人間として生きるために道徳的価値が大切だと理解し、さまざまな状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力といえる。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
	道徳的 実践意欲 と態度	道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性のこと。道徳的実践意欲は道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働きで、道徳的態度は具体的な道徳的行為への身構えといえる。

Q 5 道徳教育を進めるにあたっての配慮事項は何ですか。

A 道徳教育を進めるに当たっては、生徒の内面に根ざした道徳性を養うこととの関わりにおいて道徳的実践力を高めるよう配慮して指導することが大切です。

本来、道徳的実践は、内的な力としての道徳的実践力が基盤になければなりません。道徳的実践力が高まることによってより確かな道徳的実践ができるのであり、そのような道徳的実践を繰り返すことによって、内なる道徳的実践力も深まります。道徳教育はこのような相互作用によって充実していく必要があります。

そしてその際、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重する「自他の生命を尊重する精神」、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え、自らの意志で決定し、その行為の結果には責任をもつという「自律の精神」、自分が社会の構成員の一員であることを認識し、その中での役割を自覚して主体的に協力していくことのできる「社会連帯の精神」、社会の秩序と規律を理解して自らに課せられた「義務を果たし責任を重んずる態度」、さらには、自分と異なる他者の意見に十分耳を傾け、他者を尊重するとともに、各人が自他の「人権を尊重し」世の中からあらゆる差別や偏見をなくすよう努力し、望ましい社会の理想を掲げ、そのような社会の実現に積極的に尽くす態度を養うよう配慮することが必要です。

Q 6 道徳教育の改訂の要点は何ですか。

A 道徳教育の目標については、Q 3 で触れましたが、その中で、新たに加えられた内容は次のとおりです。

- ・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛すること
- ・公共の精神を尊ぶこと
- ・他国を尊重すること
- ・環境の保全に貢献すること

これらは、教育基本法改正等で明確になった教育の理念に基づいたものです。

また、「総則」第5款の「3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項」においても「(4) 全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること」が新たに加えられました。これにより、小中学校・高等学校ともに道徳教育の全体計画を作成・実施することになりました。

Q 7 各学校段階における道徳教育の重点を教えてください。

A 道徳教育については、まず子どもたちの実態を踏まえ、幼稚園・小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年のそれぞれの段階ごとに取り組むべき重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにする必要があります。その際、

- ・幼稚園においては規範意識の芽生えを培うこと
- ・小学校においては生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実すること
- ・中学校においては思春期の特徴を考慮し、社会との関わりを踏まえ、人間としての生き方を見つめさせる指導を充実すること
- ・高等学校においては社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める指導を充実すること

にそれぞれ配慮する必要があります。

とりわけ、基本的な生活習慣や人としてしてはいけないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うとともに、それらを基盤として、法やルールの意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることが大切です。

2 中学校における道德教育

Q 8 中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何ですか。

A 中学生の時期には、小学生の時期よりも心身両面にわたる発達が著しく、他者との連帯を求めると同時に主体的な自我の確立を求め、自己の生き方についての関心が高まり、自分の人生をよりよく生きたいという内からの願いが強くなります。道德教育においては、生徒のよりよく生きようとするこの願いにこたえるために、生徒と教師がともに考え、ともに探求していくこととなります。ですから、中学校における道德教育は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問題と言いかえることができるのです。

Q 9 中学校では道德教育をどのように進めているのですか。

A 中学校における道德教育は、「道德の時間」（各学年で年間 35 時間、週 1 時間）を要として学校の教育活動全体を通じて行っています。「道德の時間」が、中学校の道德教育における要となっている理由は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動は、それぞれの目標に基づいて計画的な教育活動が営まれており、これら各教科等の中で行われる道德教育は、道德的価値の全体にわたって行われているわけではありません。ですから、「道德の時間」が学校の道德教育の中核的な役割を果たす要として必要な時間になるのです。

Q 10 中学校の道德教育は具体的に何を指導しているのですか。

A 中学校の3年間に、生徒が自覚を深め、自分のものとして身に付け発展させていく必要がある道德的価値を、平易な短い文章で表現した内容項目というものがあります。内容項目は、次の四つに分類整理され、全体で 24 項目あり、いずれの学年においても全ての内容項目を取り上げることになっています（24 項目の内容は資料 1 を参照してください）。

- 1 主として自分自身に関すること
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

これらの内容項目の指導に当たっての配意されている事項は次の二つです。

(1) 関連的、発展的な取扱いの工夫

内容項目は、必ずしも各項目を一つずつの主題として扱われているわけではありません。各学校の実状、特に生徒の実態に即して、生徒の人間的な成長をどのように図り、どのように道德性を育成するかという観点から、幾つかの内容を関連付けて指導されています。

また、「道德の時間」の一時間一時間は単発的なものとするのではなく、年間を通して発展的に指導されています。特に、必要な内容項目を重点的にあるいは繰り返して取り上げる場合には、それまでの指導を踏まえて、一層深められるような配慮と工夫がなされています。また、学年が上がり、同じ内容項目を指導する際には、前年の指導を本年の指導の中に発展させるよう配慮されています。

(2) 各学校における重点的指導の工夫

各学校においては、生徒や学校の実態、学校の特色などを考慮して、内容項目を指導する際、学校で更に重点的に指導したい内容項目をその中から選び、多様な指導を工夫

することによって、内容項目全体の指導が一層効果的に行われるよう配慮されています。

この重点的指導については、生徒や学校の実態、生徒や保護者の意見等を把握して、学校の教育活動全体で重点化を図るものと、「道德の時間」の指導の中で重点化を図るものなどがあり、関連を図りながら指導されています。

Q11 中学校における「道德の時間」の目標は何ですか。

A 「道德の時間」の目標は中学校学習指導要領で「道德の時間においては、以上の道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成するものとする。」とされています。先にも触れましたが、「道德の時間」は、各教科や総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道德教育の要の時間としての役割を担っています。その「道德の時間」における留意点を以下にまとめます。

(1) 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を補充、深化、統合する

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等は、それぞれに固有の目標をもっており、計画的に取り組みられています。ですから、それらの指導の中で行われる道德教育が断片的であったり徹底を欠いたりするのは避けられないことです。また、単に個々の教科等に着眼した場合に、断片的で徹底を欠くばかりでなく、これらを全体として展望しても、必ずしもそれだけでは、十分な成果をあげることができないのもやむをえません。したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する「道德の時間」がどうしても必要になってくるのです。

(2) 道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める

中学生の時期は、人生に関わるいろいろな問題についての関心が高くなり、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期です。道德的価値に基づいた人間としての生き方について、自覚を深めさせながら指導してこそ、真に道德的実践力の育成が可能となります。

(3) 道德的実践力を育成する

道德的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の生徒が道德的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味しています。

道德的実践は、内面的な道德的実践力が基盤にあり、道德的実践力が育つことによって、より確かな道德的実践ができるのであり、そのような道德的実践を繰り返すことによって、道德的実践力も強められます。道德教育は、道德的実践力と道德的実践の指導が相互に響き合って、生徒一人一人の道德性を高めていくものでなければなりません。

「道德の時間」においては、その道德的実践力を育てることを目的としており、「道德の時間」の特質を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。道德的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければなりません。

Q12 中学校における「道徳の時間」の教材(資料)について教えてください。

A 「道徳の時間」の指導に当たっては、登場人物の道徳的行為を含んだ読み物資料や映像ソフト等を用いることが多くあります。読み物資料には、詩、長文の物語や伝記、戯曲、実話、論説文、インターネットによる資料など、多様な形式のものが考えられますが、読み物資料を学習指導の中で効果的に生かすには、登場人物への共感を中心とした展開にするだけでなく、資料に対する感動を大事にした展開にしたり、迷いや葛藤を大切にしたりした展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、その資料の特質に応じて、資料の提示の仕方や取扱いを工夫しています。以下のような資料があります。

- 文部科学省「中学校道徳読み物資料集」「小学校道徳読み物資料集」
文部科学省のウェブページから資料やイラストをダウンロードできます。
- 「心のノート」
文部科学省が、道徳教育の一層の充実に資するため、小・中学校の児童・生徒に配布している資料です。このノートは、「道徳の時間」をはじめ、学校の教育活動のさまざまな場面で使用することができるよう、児童生徒が自らページを開いて書き込んだり、家庭で話題にしたりできるよう工夫されています。また、教師用参考資料として「心のノート活用のために」と『「心のノート」を生かした道徳教育の展開－「心のノート」活用事例集－』があります。
- 「私たちの道徳」
「心のノート」を全面改訂したもので、生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成された教材です。平成26年度から使用できるよう、小・中学校の児童・生徒に配布されます。
- 「明るい人生」
愛知県教育振興会から出されている副読本です。

Q13 中学校における「道徳の時間」の授業展開の工夫について教えてください。

A 「道徳の時間」は、生徒一人一人が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践に結び付く内面的資質としての道徳的実践力を育成する時間です。このことを踏まえて、各教科等との関連や家庭、地域社会との連携を生かし、心に響くよう多様な展開が工夫されています。

その際、内容項目の単なる知的理解を促すことに終始したり、一方的に行為の仕方を指導したりするのではなく、ねらいとする道徳的価値について、生徒に葛藤させたり、理解を深めさせたりするなど、積極的に自己内対話を促すことが大切です。

1 授業の「山」の設定

先にも触れましたが、教材には、生徒の迷いや葛藤を起こさせるモラルジレンマ教材や生徒に感動を与える教材などがあり多種多様ですが、授業のねらいを明確にするためにも、授業の中に「山」をつくるのが大切です。モラルジレンマ教材では、主人公の道徳的変化の起こる場面か、その直後に中心場面が来るので、そこを授業の「山」とし発問を考えることとなります。感動的な資料では、主人公が最初から最後まで善人で道徳的な変化がない場合が多いので、一番感動的な場面、あるいは主人公の模範的な行為をする場面を「山」とし発問を考えます。

2 発問構成

「道徳の時間」の指導は、教師による発問の適否によりその指導効果が大きく変わります。その際、ねらいの根底にある道徳的価値を、生徒が主体的にとらえ、人間としての生き方の自覚を深められるようにすることが大切です。そのために、生徒が体験を通して感じたことや考えたこと、更に日常の具体的な事柄を話題にするなど、資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめることが可能となるよう、発問を工夫する必要があります。

特に、授業のねらいを達成させるために欠くことのできない発問を中心発問といい、生徒の実態と資料の特質を押さえて、工夫することが重要です。主人公の道徳的変化が起こった箇所での中心発問は、「どうして主人公は〇〇したのか」等、生徒が主人公の気持ちを考えて答えられるように発問します。感動的な資料のときには、ストーリーの中で心打たれる場面に注目し、「〇〇のどこが立派だと思うか」等、人間としての優しさや思いやりについて発問します。

3 授業のまとめの工夫

1時間の授業のまとめの段階では、深めた価値を整理し、実践への意欲化を図ることが大切です。生徒の感想を発表させたり書く活動を取り入れたり、教師が説話をしたり、補助的な資料を提示したりして生徒の考えを整理することなどが考えられます。そして、生徒一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるように工夫します。ここで大切なことは、「道徳の時間」は、学級活動などのように、統一した結論を出してまとめるのではなく、あくまでも生徒自身による道徳的価値の自覚を促すことが重要です。

Q14 中学校の「道徳の時間」における配意事項は何ですか。

A 「道徳の時間」における配意事項を以下にまとめます。

1 生徒の意見に対する教員の姿勢

道徳の授業では、お互いの価値観を出し合い、多様な価値観があることを実感させることが重要です。したがって、生徒の意見に対して、反対したり問題解決的にまとめをしたりするのではなく、「あ～、そうか」とか「なるほど」等生徒の一つ一つの意見を尊重し、受け止める姿勢が大切です。

また、発問に対し、予想される生徒の答えをあらかじめ考えておき、生徒の価値観のずれや、より高い価値観に気付けるよう補助的な質問を準備しておくことも大切です。

2 自己内対話を通して道徳的価値の自覚を深める

道徳教育では、最終的には道徳的実践のできる生徒の育成が目標となります。しかし、それは一方的な押し付けによるものではなく、生徒が自主的、自律的に行えるようにしなければなりません。このような道徳的実践を可能にするためには、生徒が実践の基盤になる道徳的価値を自覚し、実践につなげる内面的な能力としての道徳的実践力を身に付けることが重要です。特に道徳的価値の自覚については、自分の捉え方を振り返らせ、自分の考え方や、他の多様な意見を踏まえて、試行錯誤、悩み、葛藤など自己内対話を繰り返すことにより、より深く自覚させることが重要です。

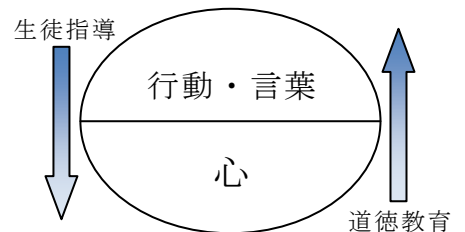
3 体験活動を道徳性の育成に役立てる

子どもたちの現状の課題として、地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流不足、自然体験などの体験活動の減少、人間関係を築く力の欠如や集団生活等における社会性の

欠如などが挙げられます。職場体験やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験は、社会との関わりを踏まえた人間としての在り方や、自分が価値ある存在であることが実感できる、非常に効果的なものです。そして、これらの豊かな体験後に、体験の過程で、学んだり、感じたり、考えたりした様々なことを想起する時間を設定し、自らを振り返らせて、他者との関わりについて考えさせることにより、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図ることが重要です。

4 道徳教育と生徒指導

道徳教育と生徒指導の関係についてはしばしば議論されます。横山利弘(元文部科学省初等中等教育局高等学校課教科調査官)は、「教師はともすると生徒の外的な行動や言葉遣いの指導に重点を置きがちになる。それでは内的な心を育てる道徳教育にはならない」と言い、その違いを、右の図を用いて分かりやすく説明しています。



横山利弘の図

円形の上半分の人に「行動・言葉」を位置づけ、下半分に「心」を設定します。生徒指導が「行動・言葉」への外的な指導を通して内にある「心」の指導を行うのに対して、道徳教育は心の教育であるから、内にある「心」を育てて、外的な「行動・言葉」に結実させていこうとするものです。

頭髮指導や服装指導など、行動や言葉遣いに対する外的な生徒指導は、多くの場合、指導後、早い時期にその効果が現れることが多くあります。それに対して道徳教育は、心に訴えかけ自己内対話を促す教育ですから、生徒は知識として、道徳的にしてはいけないことや道徳的に価値があることは分かっている、すぐに道徳的实践に表れるものではないので、道徳教育の効果をすぐに期待するものではありません。これが、生徒指導が即効薬、道徳教育が漢方薬と言われるゆえんです。

Q15 中学校の道徳教育における評価の意義は何ですか。

A 教育における評価は、生徒にとっては自分の成長を振り返る契機となるものであり、教師にとっては指導計画や指導方法を改善する手掛かりとなるもので、非常に意義があるものです。中学校学習指導要領でも、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」とされています。

一方、道徳教育における評価については、中学校学習指導要領に「生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある」とされ、道徳教育における評価についても、生徒自身による自己評価を生かして新たな目標への努力を支援するとともに、生徒の道徳的なよさや道徳的成長に対する共感的な理解に基づいて指導計画や指導方法を評価し、その結果を指導の改善に生かしていくこととされ、道徳教育においても評価は重要な意義があるとされています。

ただ、道徳性の評価においては、生徒自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけられるよう、教師が生徒の道徳的な成長を温かく見守り、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付ける働きを重視するため、「道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする」とされています。これは、道徳性は人格の全体に関わるものであり、不用意に数値などによる評価を行うことは適切ではないことを特に明記したものとと言えます。

3 高等学校における道德教育の考え方

Q16 どうして高等学校で「道德教育」を実施するのですか。

A 道德教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっています。

今日の家庭や地域社会の教育力の低下及び学校における道德教育の現状やQ2で説明したような生徒の実態などからみて、高校段階においても更に道德教育の充実を図ることが重要です。

Q17 高等学校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何ですか。

A 高等学校段階は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩む時期です。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について関心を持ち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもあります。それらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないし価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていくのです。したがって、高等学校においては、このような生徒の発達段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められます。

Q18 「人間としての在り方生き方」とは、具体的にどのようなことですか。

A 人間は、同じような状況の下に置かれている場合でも必ずしも全て同じ生き方をするとはいえず、同一の状況の下でも、幾つかの生き方が考えられる場合が少なくありません。このように、考えられる幾つかの生き方の中から、一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択するということが、主体的に判断し行動するということです。社会の変化に対応して主体的に判断し行動しうるためには、選択可能な幾つかの生き方の中から自分にふさわしい、しかもよりよい生き方を選ぶ上で必要な、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準をもつことが必要です。このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、生徒一人一人が人間としての在り方を問うことを通して形成されていきます。また、このようにして形成された生徒一人一人の人間としての在り方についての基本的な考え方が自分自身の判断と行動の選択基準となるのです。

このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、具体的には、さまざまな体験や思索の機会を通して自らの考えを深めることにより形成されてくるものです。したがって、総則第1款の4でも示されているように、就業体験やボランティア体験など体験的な活動を重視することが大切となります。人間としての在り方生き方に関する教育においては教師の一方的な押し付けや単なる先哲の思想の紹介にとどまることのないように留意し、人間としての在り方生き方について生徒が自ら考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導の計画や方法を工夫することが重要です。

Q19 高等学校では「道徳の時間」が設定されていませんが、どのように進めるのですか。

A 高等学校においては、小・中学校と異なり「道徳の時間」が設けられていないこともあって、全体計画を作成して学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導のための配慮が特に必要です。

このため、高等学校における道徳教育の考え方として示されているのが、人間としての在り方生き方に関する教育であり、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うものとしています。

小・中学校においては、「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つの視点から示されている内容について、「道徳の時間」を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行うこととされていますが、この小・中学校における道徳教育も踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道徳教育を行うことが大切です。

Q20 道徳教育の全体計画とは何ですか。

A 高等学校で道徳教育を推進するにあたって、学習指導要領の第1章第5款の3の(4)で、「全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。」とされ、どの学校も道徳教育の全体計画を作成することが新たに規定されました。

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示し、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものです。

Q21 道徳教育の全体計画を作成する目的は何ですか。

A 道徳教育の全体計画は、学習指導要領解説総則編に示されているように、次の諸点において重要な意味をもちます。

- 1 各学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育の全体計画を作成し活用することを通して、学校のさまざまな教育の営みが豊かな人格形成につながり充実した道徳教育を展開することができます。
- 2 全体計画では、学校における道徳教育の基本方針や重点目標が明示されるとともに、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動、さらには、日常生活の指導等を通して行われる道徳教育が果たすべき役割や方向性が明らかにされます。
- 3 全体計画を全教師の協力によって作成することやその活用を図ることを通して、学校における道徳教育の方針やそれぞれの分掌による役割や機能等についての理解が深まり、学校としての一貫した道徳教育の組織的な展開が可能になります。
- 4 全体計画を公表し、家庭や地域社会の理解を得ることにより、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力が得られるばかりでなく、学校、家庭、地域社会を通じて一貫した道徳教育が可能となります。

Q22 道徳教育の全体計画に含めるとよい事項は何ですか。

A 全体計画は、各学校において、校長の方針の下に、全教師の参加と協力を得ながら創意と英知を結集して独自に作成されるものですが、その意義を踏まえると、次のような事項を含めて作成することが望まれます。

1 基本的把握事項

- (1) 教育関係法規の規定，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策
- (2) 学校や地域の実態と課題，教職員や保護者の願い
- (3) 生徒の実態や発達の段階等

2 具体的計画事項

- (1) 学校の教育目標，道徳教育の重点目標
- (2) 各教科，総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連
- (3) 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- (4) ホームルーム，学校の環境の充実・整備や生活全般における指導の方針
- (5) 生徒との信頼関係をはぐくむ教師の在り方や教師間の連携方法
- (6) 家庭，地域社会，関係機関，小学校・中学校・特別支援学校等との連携の方針
- (7) 道徳教育の推進体制
- (8) その他，重点的指導に関する添付資料等

このようにして作成した全体計画は，家庭や地域社会の人々の積極的な理解と協力を得るとともに，様々な意見を聞き一層の改善に役立てるために，他の教育計画と同様，その趣旨や概要等を学校通信に掲載したり，ウェブページで紹介したりするなど，積極的に公開していくことが重要です。

Q23 道徳教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何ですか。

- A
- ① 校長の方針の下に，全教師の協力・指導体制を整える。また，計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。
 - ② 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。
 - ③ 生徒の現状を把握し，道徳教育の必要性を実感して，教師の意識の高揚を図る。
 - ④ 各学校の特色(校訓・校風)を生かして，重点的な道徳教育の目標，目指す生徒像を明確にし，教師の共通理解を図る。重点事項を短い標語にまとめるなどして，意識化するのも有効である。
 - ⑤ 家庭や地域社会，近隣の幼稚園や保育所，小・中・高等学校，特別支援学校，関係諸機関，企業などとの連携に心がける。
 - ⑥ 全体計画とは別に，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとする。

4 教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育

Q24 教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何ですか。

A 人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものです。その基本方針は以下のとおりです。

1 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の特質に応じた道徳性の育成を図る

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動には、それぞれ固有の目標や内容があります。しかし、それらはすべて、生徒の豊かな人格の形成につながるものです。したがって、教育活動全体を通じて行う道徳教育では、それぞれの教育活動の特質に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性の育成に努める必要があります。

2 自らの人間としての在り方生き方についての自覚を深める指導を充実させる

Q17でも触れましたが、高等学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められています。生徒が人間としての在り方生き方について自覚を深められる指導の充実を図ることが大切です。

3 教師と生徒の信頼関係と生徒相互の人間関係の充実を図る

学校教育のあらゆる場を通して、教師と生徒の信頼関係を育み、生徒相互の人間関係の充実を図ることが大切です。さらに、各教育活動の特質に応じて生徒相互の交流を深め、互いに節度を持ち、伸び伸びと生活する中で、認め合い、助け合い、励まし合い、協力し合う態度を育てることが道徳教育として重要です。

4 豊かな体験活動の充実と他者との関わりの中で自らを振り返る指導を充実させる

学校教育全体において、各教育活動の特質に応じて、望ましい勤労観・職業観の育成を図る就業体験活動やボランティア活動、自然体験活動など、生徒の豊かな心を育てる実践的活動を一層充実させる必要があります。そして、人間理解や他者理解を深め、ともに学ぶ楽しさや自己の成長に気付く喜びを大切に、各教科等の学習においても自らの在り方生き方に直接関わることを実感できるようにするなど、道徳教育に資する学習を充実させることが大切です。

5 社会生活上のきまりや基本的なモラルについての指導を充実させる

学校の教育活動全体を通して、人間としてよりよく生きていくための道徳性を育成する視点に立って、基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルなどに関わる指導を充実させることが大切です。

Q25 各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何ですか。

A 各教科に属する科目における目標や内容には、生徒の道徳性の育成に関係の深い事柄が直接的、間接的に含まれています。各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握することが大切です。そして、それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果も一層高めることができます。特に、今回の改訂では、公民科の指導において人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視しており、高等学校における道徳教育の中核的な指導の機会となるため、各学校の道徳教育の目標を達成させるため計画的に取り組むことが重要です（各教科の目標と人間としての在り方生き方に関する内容は資料3を参照してください）。

Q26 各教科・科目において道德教育を展開させる留意点・工夫は何ですか。

A 各教科・科目にはそれぞれの目標があり、それに沿って計画的に授業が行われていますが、基礎・基本事項の習得、思考力・判断力・表現力等の育成は、生徒の生きる力を育み、生徒の人格形成にも影響を与えるもので、それ自体が人間としての在り方生き方教育であると言えます。しかし、効率的・効果的に道德教育と関連させるためには、教師の知識と工夫が必要になります。以下にその留意点をまとめます。

1 道德教育に関する知識の習得

高等学校においても一層の道德教育の充実が求められていることを知り、道德教育の目標をはじめその知識を身に付けておくことが大切です。また、中学校との接続を意識した道德教育を高等学校で展開させるために、「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つの視点から示されている内容項目を理解し、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道德教育を行うことが大切です。

2 担当教科の内容と道德教育の内容との接点の検討

高等学校の各教科・科目は、中学校の内容と比べると、より専門性が高く、道德教育の内容とさらに乖離していく感があります。よって、教師が24の内容項目を理解し、意図的に授業に取り入れていかないと効率的・効果的な道德教育は望めません。各教科・科目の指導内容と内容項目の接点を検討し、各教科・科目の目標を損ねないように道德教育の内容を含めていくことが大切です。

3 マイクロインサージョンの効果的な活用

マイクロインサージョンとは、工学・技術教育において、倫理的な価値を問う話題を挿入し、技術者としての「在り方」に対する感度を高めることを目指すものです。技術者倫理教育において、倫理観の構築を目指して取り入れられている手法です。1時間の授業の指導内容に、ちょっとした道徳的な話題を挿入し、教科指導の中で道徳性の育成を図るものです。

Q27 総合的な学習の時間と道德教育の関連を教えてください。

A 総合的な学習の時間の目標は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」と示されています。

その具体的な内容は、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題や、生徒が興味・関心をもって設定した課題、あるいは自己の在り方生き方や進路に関わる課題などが考えられます。生徒が、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、このような課題に取り組む過程の中で、様々な道徳的価値に触れることが期待されるとともに、道徳性を育む絶好の学習機会となりえます。

また、総合的な学習の時間が重視する、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度は、道德教育につながるものです。

Q28 特別活動と道德教育の関連を教えてください。

A 特別活動は、目標の中で「人間としての在り方生き方」を掲げており、公民科の「現代社会」「倫理」とともに、人間としての在り方生き方に関する教育について中核的な指導の場面となります。特別活動のさまざまな教育活動においては、道德教育の目標全体を踏まえた指導を行うこととなります。

特別活動では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、よりよい人間関係を築く力、集団や社会の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を育成することが重視され、体験活動や話し合い活動の充実が求められています。特に、ホームルーム活動を中心として、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する指導を行うことにより、道德性を育成する重要な機会となります。

Q29 キャリア教育と道德教育の関連を教えてください。

A 社会の激しい変化に流されることなく、直面する様々な課題に柔軟に対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようキャリア教育の充実が求められています。進路指導が進学指導・就職指導になりがちだったことの反省に立ち、キャリア教育は、将来の生き方の指導として組織的、体系的に行われる必要があります。

道德教育との関連においては、道德教育を進めるに当たり、望ましい勤労観・職業観の育成を図る就業体験活動やボランティア活動、自然体験活動などは、生徒の豊かな心を育てる実践的活動であるので、一層充実させる必要があるとされており、キャリア教育における、望ましい勤労観・職業観をはぐくむ就業体験活動や人間としての在り方生き方について考える時間は、道德教育としても非常に意義深いものです。キャリア教育と道德的価値の自覚を図る学習とが響き合うよう工夫することが望まれます。

Q30 道德教育を行うときに参考になる資料はありますか。

A 愛知県では平成25年3月に「明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて」という道德教育指導参考資料が各校に配付されました。教材編は「自己を見つめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の三節に分かれています。それぞれの教材には、総合的な学習の時間やホームルーム活動で実際に活用できるように、指導案や〈授業のねらいの例〉〈まとめの例〉があります。別添のCD-Rにはデータが入っていますので、ワークシートなどを各クラスの実情に合わせてアレンジして使うこともできます。

また、道德の内容項目と学校における教育活動の関連についてまとめた資料2を添付しますので活用してください。

その他に、茨城県、埼玉県、岩手県、千葉県などでは高等学校の道德教育のためのテキストが作られています。

参考資料

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』東山書房，2009
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編』日本文教出版，2008
- 中央教育審議会答申(平成20年1月17日)「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」『文部科学省Webサイト』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm
- 広岡義之編著『新しい道徳教育－理論と実践－』ミネルヴァ書房，2009年
- 村田昇編著『道徳の指導法』玉川大学出版部，2008年
- 沼田裕之，増渕幸男編著『道徳教育21の問い』福村出版，2009年
- 麗澤大学道徳科学教育センター『高校生のための道徳教科書』麗澤大学出版会，2013年
- 安彦忠彦編『高等学校学習指導要領－改訂のピンポイント解説－』明治図書，2009年

道徳教育の内容項目

内容項目とは、小・中学校の道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容である。中学校では24の内容項目が示されており、「かかわり」という視点で「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つに分類整理されている。高等学校においては、この小・中学校における道徳教育の内容を踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい道徳教育を行うことが大切である。以下に中学校の内容項目を示す。

1 主として自分自身に関すること

視点：自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図るに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	望ましい生活習慣，心身の健康，節度と調和	望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2)	目標の実現，希望と勇気，強い意志	より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3)	自律の精神，自主，誠実，責任	自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4)	真理愛，真実の追求，理想の実現	真理を愛し，真実を求め，理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
(5)	向上心，個性の伸長，充実した生き方	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

視点：自己を他の人とのかかわりの中でとらえ，望ましい人間関係の育成を図るに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	礼儀	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとる。
(2)	人間愛，思いやり	温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3)	信頼・友情	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。
(4)	健全な異性観，男女の敬愛	男女は，互いに異性についての正しい理解を深め，相手の人格を尊重する。
(5)	自他の尊重，謙虚，寛容の心	それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
(6)	尊敬・感謝，報恩	多くの人々の善意や支えにより，日々の生活や現在の自分があることに感謝し，それにこたえる。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

視点：自己を自然や美しいもの，崇高なものとのかかわりにおいてとらえ，人間としての自覚を深めることに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	生命尊重	生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。
(2)	自然愛，畏敬の念	自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3)	人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見いだすように努める。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

視点：自己を様々な社会集団や郷土，国家，国際社会とのかかわりの中でとらえ，国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち，平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図ることに関するもの

	内容項目	詳 細
(1)	法やきまりの遵守，権利と義務，社会の秩序と規律	法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。
(2)	公德心，社会連帯，よりよい社会の実現	公德心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。
(3)	正義，公正・公平，差別や偏見のない社会の実現	正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。
(4)	集団生活の向上，役割と責任	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(5)	勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉	勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。
(6)	家族愛	父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(7)	愛校心	学級や学校の一員としての自覚をもち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。
(8)	郷土愛	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。
(9)	愛国心，日本人としての自覚，文化の継承と創造	日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
(10)	国際理解，人類愛	世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。

24 の内容項目と教育活動との関連

1 主として自分自身に関すること

内容項目	キーワード	各教科, 特別活動, 分掌等との関連
(1) 望ましい生活習慣を身に付け, 心身の健康の増進を図り, 節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	生活習慣 調和のとれた生活	特別活動 生徒指導部
(2) より高い目標を目指し, 希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	目標・希望をもつ 達成感 達成しようとする強い意志	各教科のオリエンテーション 考査前の学習計画・考査後の反省 部活動の指導 キャリア教育
(3) 自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 誠実に実行してその結果に責任をもつ。	自主自律, 責任感 自ら考え判断し行動する	特別活動
(4) 真理を愛し, 真実を求め, 理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	理想の追究 目標にチャレンジ 将来の自分の在り方 真理を求める 真実を求める 探求し続ける態度	先人の伝記, 自然, 伝統と文化, スポーツなどを題材とし, 生徒が感動を覚えるような魅力的な教材 総合的な学習の時間 キャリア教育
(5) 自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	自己受容 自己理解 自己との対話を深める 生き方の追究 新たな自己発見 自らを省みる	キャリア教育 特別活動 公民 各教科, 授業最後のところでの振り返り グループ学習での振り返り

2 主として他の人とのかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科, 特別活動, 分掌等との関連
(1) 礼儀の意義を理解し, 時と場に応じた適切な言動をとる。	礼儀 適切な言動 人間尊重の精神 外国の礼儀, 国際化 相手を思う気持ち	授業の始まりと終わりの挨拶 職員室の入室, 退室の挨拶 国際理解教育 面接指導
(2) 温かい人間愛の精神を深め, 他の人々に対し思いやりの心をもつ。	思いやりの心・親切 いたわり・励まし 助け合い・話し合い 体験と結びつけて思いやりの心を育てる 助け合いながら何かを達成	グループ学習 理科の実験など班で協力 体育のチーム 特別活動 (学校行事)
(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合う。	真の友情 いたわり・励まし合い 助け合い・話し合い	特別活動, 部活動
(4) 男女は, 互いに異性についての正しい理解を深め, 相手の人格を尊重する。	異性についての理解 適切な態度	保健 男女共同参画
(5) それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え方があることを理解して, 寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	個性の尊重 寛容の心 互いの立場・考え方の理解	意見を出し合いながら互いの立場や考え方を理解する グループ学習
(6) 多くの人々の善意や支えにより, 日々の生活や現在の自分があることに感謝し, それにこたえる。	尊敬・感謝 報恩 地域貢献, 社会貢献	特別活動 公民 地域奉仕活動

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科，特別活動，分掌等との関連
(1) 生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。	限りある命 生命の尊さ 生きることの意味 死の意味 生きていることへの感謝 身近な命と世界の命	生物，保健，公民 生徒指導部（薬物乱用防止教室，交通安全教室） 家庭科
(2) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心を持ち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	自然のもつ美しさ 自然の神秘性 自然のエネルギー 美しいものに感動 畏敬の念	理科，数学，美術など芸術 歴史，宗教
(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きること喜びを見いだすように努める。	人は弱い心，醜い心を持ち，それらを克服する強い心 困難に立ち向かう	特別活動，公民 部活動

4 主として集団や社会とかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科，特別活動，分掌等との関連
(1) 法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。	法や規則の遵守 社会の秩序と規律 ルールを守る	規範意識等のデータを基に分析 交通安全指導
(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。	公德心 モラル・マナー 連帯	環境問題
(3) 正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。	正義，強い精神力 差別・偏見のない社会 実在の人物の例 郷土の偉人	地域の人たちとの連携
(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	様々な社会集団の存在 自己の役割と責任 集団生活の向上	褒められることで自分の存在感を自覚
(5) 勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。	勤労の意義 奉仕の精神 キャリア教育 ニート，フリーター	奉仕活動
(6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	父母，祖父母への敬愛 充実した家庭生活	家庭科
(7) 学級や学校の一員としての自覚を持ち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。	学級や学校の一員としての自覚	ホームルーム活動 生徒会活動
(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。	郷土を愛す 郷土の発展	地域の人たちとの連携
(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	国を愛する心 伝統と文化	公民
(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。	国際的な視野 世界平和 人類の幸福	国際理解教育 公民

各教科の目標と人間としての在り方生き方に関する内容との関連

	関連する内容
国語科	国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することなどにつながるものである。
地歴科	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することなどにつながるものである。
公民科	「現代社会」では、科目の導入において、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正等について理解させ、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会に関わる現代社会の諸課題を取り上げて考察させる中でさらに理解を深めさせるとともに、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図ることとした。 「倫理」では、人間としての在り方生き方への関心を高め、その手掛かりとして先哲の考え方を取り上げて自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めるとともに、課題を探究する学習を一層重視し、論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにした。 なお、公民科については、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」をすべての生徒に履修させることとしている（総則第3款の1の(1)）。
数学科	生徒が事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成にも資するものである。また、数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てることは、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資するものである。
理科	自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどの事象を理解させ、自然と人間との関わりについて認識を深めさせることは、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成につながるものである。また、目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探究する能力を育て、科学的な自然観を育成することは、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てることに資するものである。
保健体育科	運動の実践は、技能の獲得とともに、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、チームの合意形成に貢献しようとするなどの公正、協力、責任、参画などに対する態度の育成にも資するものである。集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することにつながるものである。
芸術科	芸術を愛好する心情を育て、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことは道徳性の基盤の育成に資するものである。
外国語科	外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。
家庭科	生活に必要な知識と技術を習得することは、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながるものである。また、家族・家庭の意義を理解させることや主体的に生活を創造する能力などを育てることは、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするにつながるものである。
情報科	情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させることは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながるものである。

各学校においては、道徳教育の充実が今回の改訂においても重視されていることを踏まえ、全教師の連携協力のもと、年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育が一層具体的に展開されるよう努める必要がある。